市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム

目次 **頁数**

１．理念・使命・特性 1
２．募集専攻医数 3
３．専門知識・専門技能とは 4
４．専門知識・専門技能の習得計画 4
５．プログラム全体と各施設におけるカンファレンス 6
６．リサーチマインドの養成計画 7
７．学術活動に関する研修計画 7
８．コア・コンピテンシーの研修計画 7
９．地域医療における施設群の役割 8
１０．地域医療に関する研修計画 8
１１．内科専攻医研修プログラム 8
１２．専攻医の評価時期と方法 10
１３．専門研修管理委員会の運営計画 12
１４．プログラムとしての指導者研修（FD）の計画 13
１５．専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） 13
１６．内科専門研修プログラムの改善方法 13
１７．専攻医の募集および採用の方法 14
１８．内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件 14
市立東大阪医療センター内科専門研修施設群 15
1)専門研修基幹施設
市立東大阪医療センター 18
2)専門研修連携施設
1.大阪大学医学部附属病院 19
2.八尾市立病院 21
3.大阪はびきの医療センター 23
4.大阪急性期・総合医療センター 25
5.大阪国際がんセンター 27
6.大手前病院 29
7.一般財団法人大阪府結核予防会大阪複十字病院 30
8.国立病院機構大阪刀根山医療センター 33
9.独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 34
10.北斗病院 35
11.奈良県立医科大学附属病院 37
12.奈良県総合医療センター 39
13.奈良県西和医療センター 40
14.市立奈良病院 42
15.市立伊丹病院 44

16. 兵庫県立西宮病院 46
17. 古賀総合病院 48
18. 上越総合病院 50
19. 新潟県央基幹病院 51
20. 国立病院機構大阪医療センター 53
21. 関西労災病院 54
22. 信楽園病院 56
23. 天理よろづ相談所病院 58
24. 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院 59
25. 兵庫医科大学病院 61
26. 愛媛県立中央病院 63
27. 市立豊中病院 65
28. 大阪医科薬科大学病院 67

市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会 70
Appendix
別表 1 各年次到達目標 72
市立東大阪医療センターサブスペシャルティ研修の特徴 73

市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院である地方独立行政法人市立東大阪医療センター（以後市立東大阪医療センターと）を基幹施設として，大阪府中河内医療圏・近隣医療圏および当センターと従前より連携の深い連携施設とで内科専門研修を経て大阪府の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として大阪府全域を支える内科専門医の育成を行います.

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1) 大阪府中河内医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) 内科専門医認定後，スムーズな Subspecialty 分野の研修に移行できるような研修を行います.

5) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1) 本プログラムは，大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院である市立東大阪医療センターを基幹施設として，大阪府中河内医療圏，近隣医療圏および当センターと従前より連携の深い連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた

可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間を原則としますが，後述する「内科・サブスペシャルティ混合研修」では，基幹施設 3 年間＋連携施設 1 年間の 4 年間となります(P.10 「内科専攻医研修プログラム」参照)．

2) 市立東大阪医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

3) 基幹施設である市立東大阪医療センターは，大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域内にわずか二つしか存在しない内科学会教育病院の一つの施設として，内科を志す医師にとって重要な拠点病院です．地域の病診・病病連携の中核施設として，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 基幹施設である市立東大阪医療センターは，大阪府下全体で１５，中河内地区には唯一の３次救命救急センターである，隣接の「大阪府立中河内救命救急センター」の指定管理を平成 29 年 4 月より受託しており，一体化した運用により，さらに高度な救急疾患も経験できます．

5) 基幹施設である市立東大阪医療センターと専門研修施設群での併せて 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（別表 1「市立東大阪医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

6) 市立東大阪医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

7) 基幹施設である市立東大阪医療センターでの 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（別表１「市立東大阪医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

8) 内科全般

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2) 内科系救急医療の専門医
3) 病院での総合内科（Generality）の専門医

4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

市立東大阪医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，大阪府中河内医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，市立東大阪医療センター内科研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名です。.

市立東大阪医療センター内科専攻医は現在 3 学年併せて 13 名(他プログラム含む)です．

1) 剖検体数は 2019 年度 6 体,2020 年度 2 体,2021 年度 4 体,2022 年度 5 体,2023 年度 3 体,2024 年度 5 体、2025 年度 5 体です．

表．市立東大阪医療センター診療科別診療実績

2025 年度実績	入院のべ患者総数	入院患者実数	外来のべ患者総数	外来新患数
消化器内科	11584	1381	14233	1466
循環器内科	11969	1321	12988	910
脳神経内科	15734	1013	11624	914
内分泌代謝内科	4211	321	9088	335
腎臓内科	10542	668	5711	305
免疫内科	2662	150	8372	201
総合診療科（外来のみ）			1240	244
呼吸器内科（外来のみ）			978	84
血液内科（外来のみ）	71	3	1125	70
救急			6597	4294

2) 呼吸器内科，血液内科は常勤医師が不在でしたが，血液内科は 2021 年 4 月より常勤医が着任し 2024 年度より入院診療も行っています．また，その他に非常勤医がそれぞれ週３回，週１回診察を行っています．外来患者診療を含め，1 学年の定員に対し十分な症例を経験可能ですが，さらに連携施設でも豊富な症例数を経験できます．

3) 消化器病学会，循環器学会，腎臓学会，神経学会，リウマチ学会，糖尿病学会，老年医学会，肝臓学会， 内分泌学会の専門医が在籍しています（P.17「市立東大阪医療センター内科専門研修施設群」参照）．

4) 1 学年 6 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です．

5) 専攻医 3 年間に研修する連携施設は 25 施設と連携しており，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です．

6) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症

例以上の診療経験は達成可能です.

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（P.63 別表 1「年次到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします.
内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）１年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）２年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，80 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）３年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します．

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．

市立東大阪医療センター内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）としますが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長します．

2） 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週 1 回以上）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．

③ 総合診療科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を併せて少なくとも週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます．

④ 内科救急外来（平日 17 時まで）と救急外来当直（平日 17 時以後および休日）で内科領域の救急診療の経験を積みます．

⑤ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

3） 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安

全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します.
① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2023 年度実績計 5 回）
③ CPC（基幹施設 2024 年度実績 4 回）
④ 研修施設群合同カンファレンス（2025 年度開催予定）
⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：東大阪医療連携スクラム会，緩和ケア研修会，東大阪 CardioVascular カンファレンス，東大阪腎臓病セミナー，NST 勉強会等）
⑥ JMECC 受講（2024 年度院内で 1 回開催、2025 年度開催予定）
※ 内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに 1 回受講します.
⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
など

4) 自己学習【整備基準 15】
「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.
① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など
5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】
日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.
・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
・専攻医による逆評価を入力して記録します.
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】
市立東大阪医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.15「市立東大阪医療センター内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である市立東大阪医療センター臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．

市立東大阪医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence based medicine）．
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う．
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く．

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う．
② 後輩専攻医の指導を行う．
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います．

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

市立東大阪医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）．
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．
④ 内科学に通じる基礎研究を行います．

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います．

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します．

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です．

市立東大阪医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である市立東大阪医療センター臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します．

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩　後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．市立東大阪医療センター内科専門研修施設群研修施設は大阪府中河内医療圏，近隣医療圏および大阪府内の医療機関から構成されています.

市立東大阪医療センターは，大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域内にわずか二つしか存在しない内科学会教育病院のひとつとして，内科を志す医師にとって重要な拠点病院です．地域の病診・病病連携の中核施設として，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である大阪大学医学部附属病院，地域基幹病院である八尾市立病院，大阪はびきの医療センター，大阪急性期・総合医療センター，大阪国際がんセンター，大手前病院，結核予防会大阪複十字病院，国立病院機構大阪刀根山医療センター，国立病院機構大阪医療センター， 地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター，公益財団法人日本生命済生会日本生命病院,医療法人北斗　北斗病院で構成しており，基幹施設の市立東大阪医療センターで症例の比較的少ない呼吸器内科や血液内科についても専門的な研修が行えるように配慮しています．また，大阪府下共通の課題である専攻医数のシーリング対策のため，奈良県の奈良県立医大附属病院，奈良県総合医療センター，西和医療センター，市立奈良病院， 天理よろづ相談所病院， 兵庫県の県立西宮病院，市立伊丹病院，労働者健康安全機構　関西労災病院， 宮崎県の古賀総合病院， 新潟県の新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院， 済生会新潟県央基幹病院， 新潟市社会事業協会信楽園病院とも相互連携を行い，大阪府外での研修を可能としています.

当プログラムでは，1 年間主に他の地域基幹病院で，市立東大阪医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．希望や必要に応じて，高次機能・専門病院での，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

市立東大阪医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

市立東大阪医療センター内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

11.　内科専攻医研修プログラム【整備基準 16】

原則として基幹施設である市立東大阪医療センター内科で，専門研修（専攻医）1 年目に 1 年間の専門研修を行い，その秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決

定します．2 年目の連携施設での研修は，2 施設で各 6 ヶ月，もしくは 1 施設で 12 ヶ月とします

2 年目以後の研修は，内科一般の全般的な研修に加えて，サブスペシャルティを重視した研修など，いくつかのパターンがあります．

1)　内科標準研修プログラム

病歴提出を終える専門研修 3 年目の 1 年間は，引き続き満遍なく内科全体を市立東大阪医療センターで研修します（図 1）．内科専門医試験を 6 年目で受験しますが，6 年目以後は大学院への進学や，引き続き希望のサブスペシャルティで専門研修を行うことも可能です．

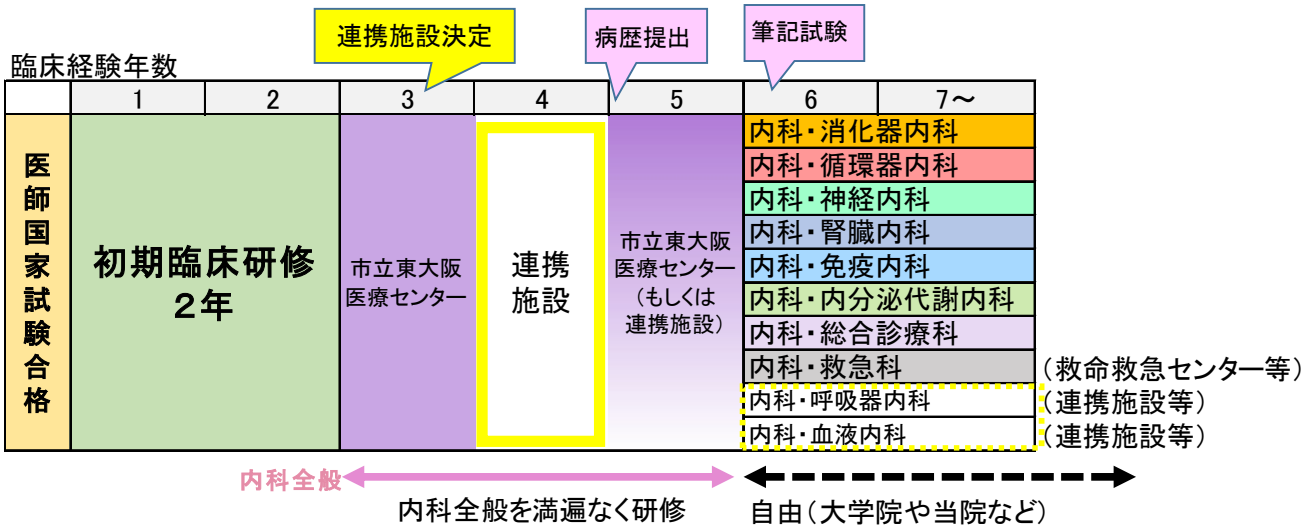


図1．市立東大阪医療センター内科標準研修プログラム

2)　サブスペシャルティ重点研修(2 年コース(図 2))プログラム

1 年目から 3 年目の内科専門研修の中で，サブスペシャルティ研修期間を 2 年間，市立東大阪医療センターと連携施設で行います．ただし，3 年間で内科専門研修を修了する必要があるため，個々の研修達成度によってサブスペシャルティ研修の期間が制限される可能性があり，臨床研修時の症例をあらかじめ確認してから研修を開始します．

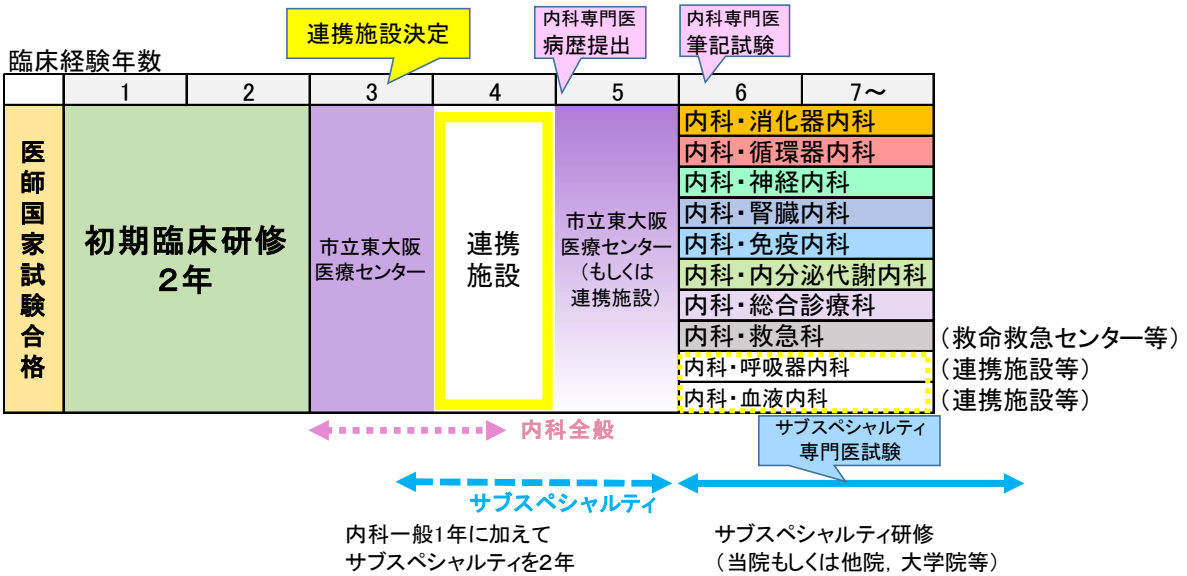


図2．市立東大阪医療センターサブスペシャルティ重点研修プログラム（2年コース）

3)　内科・サブスペシャルティ混合研修プログラム(図 3)

内科全般の研修とサブスペシャルティの研修を並行しながら行い，4 年間で修了します．余裕を持った研修が可能です．

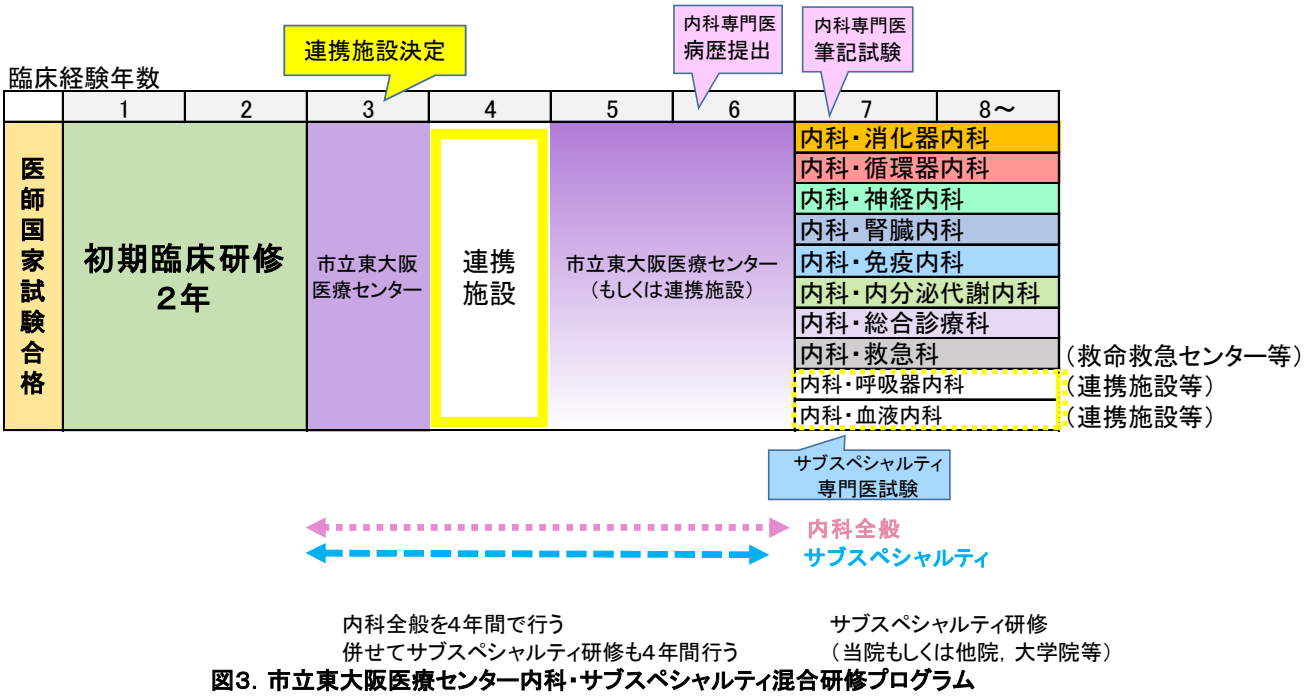


図3．市立東大阪医療センター内科・サブスペシャルティ混合研修プログラム

上記の図ではいずれも，基幹施設である市立東大阪医療センター内科で，専門研修（専攻医）1 年目の研修を行うようにしていますが，あくまで原則であり，希望によって，1 年目を連携施設での研修，2-3 年目を基幹施設である市立東大阪医療センター内科で研修することも可能です．

12.　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

(1) 市立東大阪医療センター臨床研修センターの役割

・市立東大阪医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います．

・市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します．

・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します．

・年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します．

・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床

研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します．

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます．

・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います．

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，40 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，80 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，120 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します．

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います．

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに市立東大阪医療センター内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します．

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みである必要があります（P.63 別表 1「各年次到達目標」参照）．

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講 vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）市立東大阪医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に市立東大阪医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお，「市立東大阪医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「市立東大阪医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

(P.38「市立東大阪医療センター内科専門研修管理員会」参照)

1）市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（副院長），プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科主席部長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.34 市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照）．市立東大阪医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を，市立東大阪医療センター臨床研修センターにおきます.

ii）市立東大阪医療センター内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長1名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する市立東大阪医療センター内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，市立東大阪医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

① 前年度の診療実績
   a） 病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)内科外来患者数，e)内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数
   a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動
   a） 学会発表，b)論文発表

④ 施設状況
   a） 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催.

⑤ Subspecialty 領域の専門医数
   日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します. 指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います.

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専門研修（専攻医）2 年間は基幹施設である市立東大阪医療センターの就業環境に，連携施設での専攻中は，各連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.16「市立東大阪医療センター内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である市立東大阪医療センターの整備状況：

- 臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ハラスメント相談窓口が設置されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.16「市立東大阪医療センター内科専門施設群」を参照. また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います. 逆評価は年に複数回行います. また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します. また集計結果に基づき，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します. 把握した事項については，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

- 担当指導医，施設の内科研修委員会，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-

OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムを評価します.

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

市立東大阪医療センター臨床研修センターと市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います.

市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，市立東大阪医療センター臨床研修センターの website の市立東大阪医療センター医師募集要項（市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します.

(問い合わせ先)市立東大阪医療センター臨床研修センターE-mail: byoinsomu@higashiosaka-mc.jp

市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います.

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から市立東大阪医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません.

市立東大阪医療センター内科専門研修施設群

各研修施設の概要（2025 年度）

医療機関名	総病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	剖検数	
大阪大学医学部附属病院	1086	285	11	102	143		*
八尾市立病院	380	128	8	20	15	1	*
大阪はびきの医療センター	405	154	7	5	10	2	
大阪急性期・総合医療センター	865	272	9	31	32	10	
大阪国際がんセンター	500	198	12	11	40	1	
大手前病院	401	169	9	13		2	*
結核予防会大阪複十字病院	151	130	4	1	2	0	*
NHO大阪刀根山医療センター	410	339	2	13	13	9	*
JCHO星ヶ丘医療センター	402	-	8	11	7	1	
北斗病院	260	50	6	1	5	1	
奈良県立医大附属病院	992	229	10	118	57	10	
奈良県総合医療センター	490	192	9	25	22	7	
奈良県西和医療センター	300	145	12	15	15	1	
市立奈良病院	350	141	11	23	21	3	
市立伊丹病院	414	176	10	33	22	7	
兵庫県立西宮病院	502	218	11	52	29	2	
吉賀総合病院	362	109	9	7	7	0	*
上越総合病院	313	177	6	11	11	1	
新潟県央基幹病院	300	160	3	4	7	2	*
NHO大阪医療センター	605	267	9	42	29	10	
関西労災病院	642	223	5	21	20	7	
信楽園病院			9	8	12	2	*
天理よろづ相談所病院	687	-	7	37	30	10	
日本生命病院	350	144	7	20	20	7	
兵庫医科大学病院	897	283	10	58	59	9	
愛媛県立中央病院	827	250	9	35	34	9	
市立豊中病院	549	213	8	25	24	8	
大阪医科薬科大学病院	850	302	9	47	57	13	
市立東大阪医療センター	520	157	10	16	13	5	

＊旧データより引用

各研修施設の診療可能な 13 領域について（2025 年度）

医療機関名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急	
大阪大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	*
八尾市立病院	○	○	○	△	○	△	△	○	○	△	△	○	○	*
大阪はびきの医療センター	△	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	
大阪急性期・総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大阪国際がんセンター	×	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
大手前病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	*
地域予防会大阪様十字病院	○	△	△	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○	*
NHO大阪刀根山医療センター														*
JCHO星ヶ丘医療センター	○	○	○	○	×	×	○	×	○	△	×	○	○	
北斗病院	○	○	○	×	△	△	△	×	○	×	×	○	○	
奈良県立医科大学附属病院	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	
奈良県総合医療センター	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	
奈良県西和医療センター	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
市立奈良病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
市立伊丹病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○	
兵庫県立西宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
宝塚総合病院	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	×	△	×	*
上越総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○	
新潟県央基幹病院	○	○	○	△	△	○	○	△	○	△	△	△	○	*
NHO大阪医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	
国立岩手病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
信楽園病院	△	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	△	*
天理よろづ相談所病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
兵庫医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大阪医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
市立堺大阪医療センター	○	○	○	△	○	○	△	○	○	△	○	○	○	

*旧データより引用

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．市立東大阪医療センター内科専門研修施設群研修施設は大阪府内の医療機関から構成されています．

市立東大阪医療センターは，大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療や専門領域に特化した施設での研修を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である大阪大学医学部附属病院，地域基幹病院である八尾市立病院，大阪はびきの医療センター，大阪急性期・総合医療センター，大阪国際がんセンター，大手前病院，結核予防会　大阪複十字病院，NHO 大阪刀根山医療センター，JCHO 星ヶ丘医療センター，医療法人北斗　北斗病院，奈良県立医大附属病院，奈良県総合医療センター，奈良県西和医療センター，市立奈良病院，市立伊丹病院,県立西宮病院，古賀総合病院，上越総合病院，済生会新潟県央基幹病院，NHO 大阪医療センター，関西労災病院，信楽園病院，天理よろづ相談所病院，日本生命病院,兵庫医科大学病院,愛媛県立中央病院,市立豊中病院で構成しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

地域基幹病院では，市立東大阪医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

専門研修施設（連携施設）の選択

- 専攻医１年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します．
- 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間は基本的には基幹施設の市立東大阪医療センターで研修を行いますが，研修達成度によっては基幹施設もしくは連携施設での Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

市立東大阪医療センター内科専門研修施設群は，大阪府中河内医療圏，近隣医療圏および大阪府内の医療機関から構成しています。大阪府下共通の課題である専攻医数のシーリングのため，北海道，奈良県，兵庫県，新潟県等の各病院とも連携していますが，遠方での連携施設での研修に際しては，宿舎の提供や旅費の提供など，充分なバックアップ体制をとっており，連携に支障をきたす可能性はありませんし，呼吸器疾患や地域医療に特化した専門病院での研修は必ず有益なものになると思われます．

1）専門研修基幹施設

市立東大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント相談窓口が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回、 Web 開催を含む）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC については、過年度 COVID-19 の影響により、開催に制限を受けていましたが、2023 年度 3 回、2024 年度 4 回、2025 年度 6 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･地域参加型のカンファレンス（市立東大阪医療センタースクラム会、東大阪市循環器研究会、東大阪市神経筋難病地域ケア研究会、東大阪生活習慣病研究会、東大阪市消化器病症例検討会、東大阪市腎臓病カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、血液、神経、膠原病、感染症、救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしており、その他関連学会での学会発表もしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　鷹野　譲 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立東大阪医療センターは、大阪府中河内医療圏に 2 病院しかない内科学会教育病院の 1 つで、当地区の中心的な急性期病院であり、中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。また、2017 年 4 月より 3 次救命救急センターである、隣接府立中河内救命救急センターの指定管理も受託しており、当センターとの一体化した運用により、高度の救急疾患も経験できます。さらに、2019 年度には ICU、手術室の大幅な拡張工事を行い、心臓血管外科の手術も開始し、アブレーションなど循環器内科の症例も飛躍的に増加する一方、脳外科と神経内科で脳卒中当直（SCU）も開始し、さらに優れた急性期医療を経験できるようになりました。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的

	に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本肝臓学会指導医 3 名、日本老年病学会専門医 1 名 日本血液学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 70,442 名/年、 新患 7,564 名/年 入院患者 56,773 名/年、新入院 4,857 名/年（実数）2025 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設　など

2）専門研修連携施設

1．大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ･非常勤医員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ･ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。

認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ･医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	･臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅 研修委員会委員長　山本浩一
指導医数（常勤）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名
外来・入院 患者数（内科系）	2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数　6,680 名 （病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床） 2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名　（循環器内科　17,237 名、腎臓内科 6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科　6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科　941 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に

能	基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設

2. 八尾市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 八尾市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ ハラスメント委員会が八尾市役所に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 20 名在籍しています（下記）. ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器内科部長），内科専門研修委員会委員長（内科部長））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理部門を設置します. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催（全職員必須講習会　年複数回開催）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC を開催（検体数に準じる）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンス（八尾地域医療合同研究会,中河内消化器疾患研究会,中河内平野循環器病診連携会,がん相談支援センター合同

	研修会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（基幹あるいは連携施設で受講可能です）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理部門が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・ 専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 7 回）しています. ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会発表に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	榊原 充 【内科専攻医へのメッセージ】 八尾市立病院は大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院であり、中河内医療圏および近隣医療圏にある連携施設と共に内科専門研修を行います。地域連携支援病院として、地域の診療所やクリニックでは対応困難な専門的診断・治療、高度な検査・手術などを提供し、「地域完結型医療」の中心的役割を担っています。また、必要に応じた柔軟な対応ができる内科専門医の育成を目指しています。 国指定の地域がん診療連携拠点病院として、質の高いがん診断・治療から緩和ケアまでを提供し、中河内医療圏南部のがん診療の中心的な施設となっています。大阪大学医学部付属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンターなどとの連携により、大阪府の急性期医療、地域医療支援、がん診療の実情を理解し、それらの実践的医療も行えるよう専攻医を指導・訓練します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境の調整も含める全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会内科専門医（新）5 名， 日本内科学会総合内科専門医 15 名， 日本消化器病学会消化器専門医 6 名，　日本肝臓学会専門医 5 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本老年医学会専門医 1 名，　日本脳卒中学会専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 3 名， 臨床腫瘍学会専門医 1 名，　日本感染症学会専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，
外来・入院患者数	全外来患者数 172,008 名　内科系入院患者数 3,558 名（2023 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	･日本内科学会認定医制度教育関連病院 ･日本血液学会認定血液研修施設 ･日本糖尿病学会教育施設 ･日本消化器病学会認定医制度認定施設 ･日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 ･日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ･日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ･日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 ･日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 ･日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 ･日本透析医学会専門医制度認定施設 ･日本老年医学会認定施設 ･日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ･日本アレルギー学会認定教育施設 ･日本緩和医療学会認定研修施設 ･日本臨床細胞学会教育研修施設 ･日本病理学会研修登録施設　など

3. 大阪はびきの医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 •研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 •非常勤医員として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する制度が院内にあります。（こころの健康相談室（毎月第 1 月曜日） •女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 •院内に託児所があり、病児保育（定員 1 名）も含め利用可能です。
定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	•指導医は 2026 年 4 月の時点で 10 名在籍しています。 •専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催 (2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 16 回、感染対策 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加できるよう、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催 (2025 年度実績：2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催準備中です。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています. ･治験審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大阪はびきの医療センター内科専門研修プログラム責任者 森下　裕 【内科専攻医へのメッセージ】大阪はびきの医療センターは、もともと、呼吸器、感染症、アレルギー疾患の専門病院であり、この領域において非常にレベルの高い研修が行えます。さらに現在、診療領域を広げて総合医療センターを目指して整備中です。呼吸器やアレルギー疾患の専門領域を目指す先生にとっては、豊富な専門症例が経験できます。また呼吸器疾患や結核・ COVID-19 などの感染症、アレルギー疾患は全ての診療領域の疾患と併存してきますので、どのサブスペシャリティーの領域へ進む先生にとっても将来、診療に役に立つ知識が得られます。当センターでの研修をお待ちしています。
指導医数（常勤）	日本内科学会総合内科指導医 10 名（専門医 15 名） 日本呼吸器学会指導医 4 名（専門医 8 名） 日本アレルギー学会指導医 1 名（専門医 2 名） 日本呼吸器内視鏡学会指導医 0 名（専門医 2 名） 日本リウマチ学会指導医　2 名（専門医 2 名） 日本感染症学会指導医 1 名（専門医 1 名） 日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医 2 名（専門医 2 名） 日本糖尿病学会研修指導医 1 名(専門医 2 名) 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医 1 名（専門医 2 名） 日本腎臓学会指導医 1 名（専門医　1 名） 日本透析医学会指導医（専門医 1 名）
外来・入院 患者数	2025 年実績（内科系のみ）：外来患者 218 名 (平均/日)、　入院患者 3,050 名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 7 領域、30 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	WAO center of excellence 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会内科系外科系指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本循環器学会認定専門医研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本病理学会登録施設 など

4. 大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 •非常勤医員として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する施設 (大阪府こころの健康総合センター)が、病院と公園をはさんで隣にあります。 •ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 •病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	•JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 •指導医は 2026 年 4 月の時点で 31 名在籍しています。 •専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催 (2025 年度実績 医療安全 12 回、感染対策 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催 (2025 年度実績：7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型カンファレンスを各診療科にて年２回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 9 演題)をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林　晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 32 名
外来・入院 患者数	2025 年実績：外来患者 1,167 名 (平均/日)、　入院患者 20,666 名/年
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム (J-OSLER)にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本内科学会専門医制度研修施設 日本感染症学会研修認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 心血管インターベンション学会研修施設 植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 両室ペースメーカー移植術認定施設 日本胆道学会指導施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本血液学会研修教育施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本腎デナベーション実施施設

5. 大阪国際がんセンター

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事G担当）があります。 ･ハラスメントに対する通報制度が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 7 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付

	け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（地区医師会との病診連携カンファレンス 2025 年度実績 3 回、）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題,2020 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	大川　和良 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪国際がんセンターは、高度先進医療を行う特定機能病院であり、地域がん診療拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院としてがん診療に重点を置きながら、幅広く高度な医療を提供する病院です。基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 17 名、日本肝臓病学会専門医　7 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 13 名、日本消化器内視鏡学会専門医 17 名
外来・入院 患者数（内科系）	外来患者　約 1000 名（平均延数／日）　新入院患者 632 名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、44 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設など

6. 大手前病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，当直室が整備されています. ·保育所利用制度があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 11 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．また，CPC を補完する内科系死亡症例検討会を月 1 回実施しています. ·地域参加型のカンファレンス（症例検討会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，神経，循環器，代謝・内分泌，呼吸器，血液，腎臓，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·専門研修に必要な剖検を毎年行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています．他の内科系学会での発表も，積極的に推奨しています. ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています. ·倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験事務局を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.
指導責任者	杉浦 寿央 【内科専攻医へのメッセージ】 大手前病院は，大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院の 1 つで，大阪府指定の地域医療支援病院でもあり、大阪市東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．内科系の多くのサブスペシャルティを持った病院であり,各分野の専門医がおり多彩な疾患を経験できます. 大阪府がん診療拠点病院であり，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），放射線治療，内視鏡検査・治療から緩和ケア治療までを経験できます．また，救急病院で二次救急の救急搬送を年間約 5,891 件（うち内科系症例 3,625 件）（2024 年度）受け入れており，救急の研修も十分に行えます. 主治医・担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本肝臓学会専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本神経学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，ほか
外来・入院 患者数	内科系外来患者実数 60,768 人/年，内科系入院患者数 4,660 人/年（2024 年度）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，多くの内科領域において内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	1) 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます .
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定内科専門医教育病院,日本肝臓学会認定施設,日本血液学会専門医制度研修施設,日本呼吸器学会認定施設,日本呼吸器内視鏡学会認定施設,日本消化器内視鏡学会認定指導施設,日本消化器病学会専門医制度認定施設,日本大腸肛門病学会関連施設,日本超音波医学会超音波専門医研修施設,日本乳癌学会関連施設,日本臨床腫瘍学会認定研修施設,日本がん治療認定医機構認定研修施設,日本病理学会研修認定施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設,日本臨床細胞学会認定施設,日本脳卒中学会教育施設,日本糖尿病学会認定教育施設,日本神経学会専門医制度準教育施設,日本感染症学会感染症専門医制度認定研修施設,日本腎臓学会認定研修施設,日本透析医学会認定施設など

7. 一般財団法人大阪府結核予防会　大阪複十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・令和３（２０２１）年７月にＪＲ学研都市線寝屋川公園駅前に移転します。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります。 ・一般財団法人大阪府結核予防会大阪病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ハラスメント委員会（職員暴言・暴力、セクシャルハラスメント担当窓口）が一般財団法人大阪府結核予防会大阪病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会，循環器研究会，消化器病研修会）は基幹病院および寝屋川市医師会が定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，呼吸器，内分泌、代謝、膠原病、アレルギー、神経，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については，高度ではなく，一次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表を

【整備基準 24】 4)学術活動の環境	予定しています。
指導責任者	松本智成 【内科専攻医へのメッセージ】 JR学研都市線の東寝屋川駅と星田駅のほぼ中程の西側に位置し、大阪府寝屋川北部公園に囲まれた緑豊かで閑静な丘陵地にあります。令和３（２０２１）年７月にJ R学研都市線寝屋川公園駅前に移転します。春は桜、秋には紅葉が楽しめます。1954年に療養所として発足し、1976年には大阪病院となった伝統のある病院です。健診車が地域や職場に出向く巡回健診は、結核予防会大阪府支部（現大阪府結核予防会）の集団検診が始まりです。1940（昭和15）年、結核予防会大阪府支部の今村荒男がわが国初の健診車両を設計し、瞬く間にX線間接撮影装置を載せた健診車が全国に普及していきました。現在も、本・支部合わせおよそ900台の健診車が日本全国津々浦々を駆け巡っています。 当病院での研修の特徴は内科、外科 (胸部・消化器)、整形外科、皮膚科、神経内科、泌尿器科、リハビリテーション科が協力して一人の患者に対して診療にあたることです。したがって、合併症のある患者を内科のみならず各診療科のスペシャリストと共同で診ることができ、総合内科医としての実力を養成することができます。希望すれば手術にも参加できます。 また当院は結核病棟を有する数少ない医療機関の一つで、結核の予防、診断、治療、治療後の検診、結核の外科治療、結核後遺症の診療と一連の結核医療が学べます。まだまだ結核が多い中蔓延国である日本において当院で研修することは意義があると思います。 2002年7月には地域医療連絡室の設置、2003年4月からは療養型病床を設置いたしました。また、2007年4月には訪問リハビリテーションも開始いたしました。患者さまの視点に立った地域医療に貢献できる病院として、職員一同努力しております。 また、当院開設当初より近隣市町村の住民健診、契約をいただいている健康保険組合や会社の集団健診、個人の健康診断等の事業も積極的に行っております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医　３名 日本内科学会認定医　３名 日本リウマチ学会指導医　２名 日本リウマチ学会専門医　３名 日本アレルギー学会指導医　１名 日本アレルギー学会専門医　２名 日本感染症学会指導医　１名 日本感染症学会専門医　１名 日本結核病学会結核・非結核性抗酸菌指導医　１名 日本呼吸器病学会指導医　２名 日本呼吸器病学会専門医　２名 日本呼吸器内視鏡学会専門医　１名 日本外科学会指導医　１名 日本外科学会専門医　２名 日本外科学会認定医　１名 日本胸部外科学会認定医　１名 日本呼吸器外科専門医　１名 日本消化器病学会専門医　１名

	日本整形外科学会専門医　3 名 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医　1 名 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医　1 名
外来・入院患者数	外来患者 163.8 名（1 日平均）　入院患者 124.8 名（1 日平均）※H29 年度実績
病床	151 床〈 一般 62 床　地域包括ケア 18 床　療養 41 床　結核 30 床 〉
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム（J-OSLER）にある 13 領域，70 疾患群の症例については，内科・結核患者・高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科は考える診療科といわれていますが最近では手技が重要になってきます。当院では内科専門医に必要な技術・技能を，特に気管内挿管、緊急気管切開、中心静脈カテーテル挿入、胸腔穿刺、胸腔ドレーン挿入を一般病棟、結核病棟、療養病棟の枠組みのなかで，経験していただきます。また外科、整形外科と連携して手術までの流れ、術後管理を踏まえた内科治療を学ぶことができます。もちろん、希望すれば実際に手術に立ち会えます。 また、結核診療においては、結核の診断、治療、治療後の管理まで一連の流れを学ぶことができる数少ない施設です。 健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による，機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。 褥創につてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については，急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価，多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整。 在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。 地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，連携型在宅療養支援診療所群（6 医療機関）の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 地域における産業医・学校医としての役割。 また、月に１から２回、近隣の保健所にて結核の管理業務を経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会研修施設

8.国立病院機構大阪刀根山医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ･ハラスメントに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です（定期利用のみ）。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 15 名在籍しています（2025 年 4 月現在） ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理。医療安全。感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（呼吸器　脳神経）。 専門研修に必要な剖検（2024 年度 9 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	矢野　幸洋　（内科学会指導医/総合内科専門医） 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、 日本神経学会神経内科専門医 13 名
外来、入院 患者数（内科系）	外来患者　39,681 名（平均延数　3,307 名／月） 新入院患者　2,727　名（平均数　227／月） (2024 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。（詳細はお問い合わせください）

経験できる技術。技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診。病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など

9. 独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･星ヶ丘医療センター任期付医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･病児保育があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 11 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 23 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年実績なし）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に臨床研究審査委員会を開催（2025 年度実績 7 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。

指導責任者	髙橋 務 【内科専攻医へのメッセージ】 星ヶ丘医療センターは、大阪府北河内二次医療圏の中心的な急性期病院であり、北河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会専門医 15 名 日本内科学会総合内科指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消火器内視鏡学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本神経学会神経内科指導医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本感染症学会指導医 0 名、日本感染症学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数 （内科系）	外来患者 25,819 名/年　新入院患者 1,702 名/年　※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本臨床細胞学会認定教育研修施設 など

10.社会医療法人北斗　北斗病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･北斗病医院医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント相談窓口が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、専用当直室、更衣室、が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】	･指導医は　8　名在籍しています。 ･基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図りながら、連係施設

2)専門研修プログラムの環境	としての役割を全うするように努めています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会は定期的に開催（2025 年度実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回、 Web 開催を含む）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC については、年 1 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･内科地方会などでの発表を推奨し、協力していきます ･プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、腎臓、神経、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表）をしており、その他関連学会での学会発表もしています。 ・過去の専攻医で当院での症例報告を論文掲載された実績があります。
指導責任者	プログラム統括責任者　金藤　公人 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は、十勝地区の中核病院の 1 つで、当地区の脳神経内科専門医の在籍する 2 施設の 1 つであり、脳神経系疾患の中心的な急性期病院である。近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じ地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 1 名　日本神経学会専門医 1 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本老年病学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 183,075 名/年、 新患 27,041 名/年 入院患者 80,045 名/年、新入院 1,293 名/年（実数）2024 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本老年医学会認定施設　日本神経学会准教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 など

11．奈良県立医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・奈良県立医科大学附属病院の医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメントに係る規程が整備され、必要に応じて委員会が開催されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・病院の至近距離(50m)に院内保育所があり、病児保育の体制も整っています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	・指導医が 118 名在籍しています。（按分前）（下記参照） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の委員会・講習会を定期的に開催（2025 年度実績：臨床研究セミナー（12 回実施）、医療安全研修会（e-learning（2 項目受講必須））、感染対策研修会（集合研修 2 回・e-learning4 種類実施 ※補助対応あり））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・臨床医として優秀かつ教育実績のある医師を国内外から広く招聘し、専攻医の臨床能力向上に努めています。（Dr. N プロジェクト）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、内分泌、アレルギーを除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（連携施設からの按分症例数を含めると充分です）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 25 演題）をしています。
指導責任者	吉治　仁志 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県立医科大学附属病院は多くの協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて、質の高い内科専門医育成を目指しています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、内科専門医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 118 名，日本内科学会総合内科専門医 80 名 日本消化器病学会専門医 24 名，日本肝臓学会肝臓専門医 19 名， 日本循環器学会専門医 14 名，日本内分泌学会専門医 9 名， 日本腎臓病学会専門医 19 名，日本糖尿病学会専門医 11 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名，日本血液学会血液専門医 10 名， 日本神経学会神経内科専門医 20 名，日本アレルギー学会専門医(内科）3 名， 日本リウマチ学会専門医 7 名，日本感染症学会専門医 10 名， 日本老年医学会専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 25 名， 臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数	一日平均外来患者数 2,334 名(年間延べ外来患者数は 564,777 名） 年間新入院患者 21,359 名(年間延べ入院患者数は 288,698 名）
経験できる	極めて稀な疾患を除き、連携施設群の症例を合わせて、研修手帳(疾患群項目

疾患群	表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定認定不整脈専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 TAVR（経カテーテル的大動脈弁置換術）実施施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定専門医施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器がん検診学会認定医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リハビリテーション医学会専門研修プログラム基幹施設 日本神経病理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本頭痛学会認定教育施設 総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定総合医・家庭医研修プログラム研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

12. 奈良県総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·有期専門職員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があり、月に 1 度メンタルヘルス相談会が開催されています. ·ハラスメント防止委員会が奈良県総合医療センターに整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医は 25 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：前田副院長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修医支援室があります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会（ICT 勉強会）を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全講習会 2 回，感染対策講習会（ICT 勉強会）7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設：奈良県総合医療センター病診・病病連携医療講座：13 回開催. 集学的がん治療勉強会：4 回開催,緩和ケア勉強会 1 回）を定期的に開催し，専攻医　に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修支援室が対応します.
認定基準 【整備基準 23】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体、2024 年度 9 体、2023 年度 9 体、2022 年度 3 体、2021 年度 7 体、2020 年度 8 体、2019 年度 12 体，2018 年度実績 15 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 11 回）　しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	副院長兼感染症内科部長　前田 光一
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医　8 名，日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名 日本内分泌学会専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本感染症学会専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 11 名，ほか

外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 1,296 名（1 日平均）　入院患者 440 名（1 日平均）　※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本２神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

13. 奈良県西和医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要なインターネット(Wi-fi)環境を整備している。 ・奈良県西和医療センターの常勤医師として適切な労務環境を保障している（適切な給与計算、福利厚生、休暇の取得の推奨等を行っている）。 ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携を行う。また、ハラスメントやメンタルを含む困りごと相談窓口を設置しており、必要に応じて産業医面談を受けることが可能）。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、医局に休憩場所があり、女性医師専用更衣室が設置されている。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科系指導医が 15 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、それぞれ年 2 回ずつの受講を義務付けている。また、受講に配慮し開催時間の配慮を行なっている。 ・診療科の垣根を越えた合同カンファレンスを定期的に開催しており、時間的配慮の上、J-OSLER や症例検討の支援を行っている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医の受講を推奨している。受講するため開

	催時間を調整している。
認定基準 【整備基準 24/32】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会又は同地方会で年間計 1 演題以上の学会発表を奨励し、指導医が積極的に指導・補助する体制を整えている。
指導責任者	土肥 直文（院長 兼 専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県西和医療センターは、奈良県の西部にある西和２次保険医療圏の基幹病院です。 すなわち西和７町と香芝市・広陵町などの周辺地域の人口 30 万人の住民の命と健康を守ることを使命とする重症急性期医療を担う地域医療支援病院なのです。 2025 年度の救急搬送数は、4,100 台／年であり、救急医療の砦であるとともに、地域の医療機関からの紹介患者さんに対する、高度急性期・重症急性期医療が中心です。在籍する内科医は 33 名（2026 年 4 月 1 日現在）、うち内科専門医研修を履修中の専攻医は６名です。当院を基幹施設とするプログラムに所属する専攻医と、奈良県立医科大学や大阪府内の医療機関などを基幹施設とする専攻医が在籍しています。 この６名の専攻医はそれぞれの内科に分かれて研修しています。副院長兼総合内科部長（感染症内科部長と腫瘍内科部長兼務）の中村孝人先生や、腎臓内科部長で医師臨床研修プログラム責任者の森本勝彦先生を教育の中心に配置し、各内科が本当に仲良く教育の環境を整えています。 当院の内科専攻医は、内科系救急対応、内科の初診対応を数多く担当するため、知らず知らずのうちに臨床推論や内科診断学の力がついてきます。また、各診療科では最先端の専門的治療に関することも教育していますので、例えば循環器内科であれば PCI やカテーテルアブレーションの世界、消化器内科では内視鏡治療の世界、腎臓内科では広くかつ深い疾患知識や腎生検、腎代替療法の世界、呼吸器内科では呼吸器の深い世界や気管支鏡の世界を、総合内科・感染症内科・腫瘍内科では、内科専門医のさらに先の深みの世界を経験してもらうことができます。 各内科の医師たちは、臨床に追われながらも教育を大切に思っている者ばかりです。この文章を読んでくれている君が、私たちの仲間となり、一緒に勉強し臨床の研鑽を積んでいってくれることにより、本当に魅力的な内科専門医になってくれることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名 日本老年医学会老年病専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名

	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本集中治療医学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	延外来患者数：59,880 名 / 年、新規外来患者数：4,136 名/年 延入院患者数：56,274 名 / 年、新規入院患者数：4,776 名/年 ※ 2025 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	バイタルサインの把握、重症度及び緊急度の把握、ショックの診断と治療、二次救命処置、頻度の高い救急疾患の初期治療、専門医への適切なコンサルテーション、予防医療のほか、急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	植込み型除細動器移植認定施設 経皮的カテーテル心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)認定施設 日本がん治療認定医機構認定医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定専門医制度認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度教育病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定制度教育関連施設 日本脈管学会認定訓練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施認定施設 経皮的中隔心筋焼灼術認定施設 ペースメーカ移植術認定施設 両心室同期ペースメーカ移植認定施設 ローターブレーター認定施設　など

14. 市立奈良病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所，病児保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 23 名在籍しています. ·内科専攻医管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績医療安全 2 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

	·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ・内科研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています.
指導責任者	田中　斉祐 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は奈良市の中核病院として，地域医療の充実や人材の育成に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは，近隣医療圏の連携施設や特別連携施設と協力して，地域医療，救急医療，専門医療の診療知識や技術を習得すること，また医療安全を重視し，患者本位の医療サービスを提供することを目指し，質の高い内科医を育成します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 29 名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門 5 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名 日本プライマリケア連合学会指導医 3 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名　　ほか
外来・入院患者数 2025 年	外来患者 15,700.3 人（1 ヶ月平均）、入院患者 8,284.4 人（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本総合診療医学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設

15. 市立伊丹病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 ·ハラスメント窓口（総務課人事研修担当）が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は33名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ·医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績5回，2020年度実績9回，2021年度実績9回、2022年度実績5回、2023年度9回実績、2024年度8回実績）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2019年度実績12回，2020年度実績9回，2021年度実績8回、2022年度実績8回、2023年度実績12回、2024年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム，伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム，伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム，伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会，伊丹市医師会内科医会講演会，登竜門カンファレンス，神戸GMカンファレンスなど）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2016年9月に第1回を開催，2017年5月に第2回，2018年5月に第3回を開催，2019年5月に第4回を開催，2022年10月に第5回を開催、2023年6月に第6回を開催、2024年10月に第7回を開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても58以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2018年度実績10体，2019年度13体、2020年度8体，2021年度9体、2022年度12体、2023年度6体、2024年度9体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019年度実績9回，2020年度実績3回，2021年度実績9回、2022年度実績7回、2023年度実績8回、2024年度実績7回）しています。

	·治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2019年度実績11回，2020年度実績8回，2021年度実績8回、2022年度実績11回、2023年度実績11回、2024年度実績11回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績3演題，2020年度実績3演題，2021年度実績5演題、2022年度実績3演題、2023年度実績7演題．2024年度実績3演題）をしています。 ·学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています。（当院規定による）
指導責任者	村山洋子 【内科専攻医へのメッセージ】 市立伊丹病院は，兵庫県阪神北医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神北医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として，入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に，診断。治療の流れを通じて，社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医33名，日本内科学会総合内科専門医22名， 日本消化器病学会消化器指導医4名，日本消化器病学会消化器専門医7名， 日本消化器内視鏡学会指導医4名，日本消化器内視鏡学会専門医8名， 日本肝臓学会指導医1名，日本肝臓学会専門医4名， 日本循環器学会循環器専門医6名， 日本呼吸器学会呼吸器指導医2名，日本呼吸器学会呼吸器専門医3名， 日本血液学会血液指導医3名，日本血液学会血液専門医4名， 日本糖尿病学会指導医1名，日本糖尿病学会専門医4名， 日本アレルギー学会指導医（内科）1名，日本リウマチ学会指導医1名， 日本老年医学会指導医2名，日本認知症学会指導医2名 日本高血圧学会指導医1名，日本腎臓病学会専門医1名 日本臨床腫瘍学会指導医1名ほか
外来。入院患者数	外来患者17624名（1ヶ月平均）　新入院患者904名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術。技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　臨床研修病院（基幹型） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設

	日本老年医学会専門研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 など

16. 兵庫県立西宮病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室と最新の生成 AI・Wi-Fi インターネット環境があります. ·地方公務員法第 22 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づく会計年度任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています. また公舎等の利用が可能です. ·当センターに常勤の臨床心理士が職員のメンタルヘルス相談を随時行っています. そしてメンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります. 希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ·院内にハラスメント委員会を設置しました. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 52 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・2 体分，2021 年度実施 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 69 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，神経，アレルギー，膠原病，呼吸器，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 9 演題、2024 年度実績 4 演題、2025 年度実績 8 演題）をしています.

	・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・臨床研究センターを設置しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています. ・臨床研修センター（前期・後期）を設置しています.
指導責任者	楢原　啓之（ならはら　ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立西宮総合医療センター（2026 年 7 月兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が合併移転）は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪急電車今津線阪神国道駅から徒歩 1 分にあります．兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、診療科間の垣根が低いチーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています．兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. ・本プログラムは，初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して，質の高い内科専門医を育成するものです．医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 52 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名・内科専門医 4 名，日本消化器病学会消化器病専門医 14 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名，日本肝臓学会肝臓専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本腎臓学会腎臓専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名，日本神経学会認定神経内科専門医 3 名日本アレルギー学会専門医 2 名，日本血液学会認定血液専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	兵庫県立西宮病院：外来患者 12,312 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,695 名（1 ヶ月平均延数） 兵庫県立西宮病院：外来患者 55,297 名/年　入院患者 48,857 名/年 西宮市立中央病院：外来患者 26,001 名/年　入院患者 20,440 名/年
経験できる疾患群	軟部肉腫等のきわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．毎年 JMECC 講習会を主催します．特に緊急心臓カテーテル検査・PCI，化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます.
経験できる地域医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます．2026 年 7 月には屋上にヘリポートを設置してドクターヘリを運用します．また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設

	日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など

17. 古賀総合病院

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 7 名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（年 3 回予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，宮崎東諸県医療圏の救急医療合同カンファレンス、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ·特別連携施設（美郷町国民健康保険西郷病院）の専門研修では、電話や週 1 回の古賀総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（年 3 回予定）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】4) 学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。（2024 年度実績 4 演題）
指導責任者	楠元　寿典
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 7 名 日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,472 名（1 ヶ月平均）入院患者　548 名（1 ヶ月平均延数）（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設　など

18. 上越総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期研修臨床研修制度基幹型臨床研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。電子化されている雑誌についてはオンラインでの利用が可能です。 ･新潟県厚生連常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（上越総合病院衛生委員会）があります。必要に応じて心療内科医が面談します。 ･ハラスメントに対する相談・苦情受付の体制として上越総合病院はらす円と委員会があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 11 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会［統括責任者（副院長・消化器内科診療部長、総合内科専門医）］で、基幹施設、連携施設に設置されている研修管理委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し、設置済みの教育研修センターとともに、施設内で研修する専攻医の研修を管理士、内科専門研修プログラム委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 3 回）、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型カンファレンス（2022 年実績 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実態調査に内科専門研修プログラム管理委員会と教育研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうち、血液、内分泌、膠原病を除いたほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2022 年度 0 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･研修に必要な図書室やインターネット環境（電子ジャーナル）などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 1 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会（2022 年度実績 4 題）ならびにサブスペシャリティ学会での学会発表を加えると年間 5 題前後行っています。 ･新潟大学社会人大学院、富山大学社会人大学院、信州大学社会人大学院に入学が可能であり、研究活動を行うことができます。
指導責任者	佐藤知巳（副院長　消化器内科診療部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は上越医療圏の基幹病院として救急医療から急性期疾患、そして慢性期疾患（高齢者、終末期）、地域医療といった様々な医療現場を経験することができます。また、総合診療にも力を入れており、ジェネラリストを目指す研修も可能です。 病院全体で若手医師の育成に取り組んでいる当院での研修をぜひご検討ください。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医名 11 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本消化器病学会指導医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器学会指導医 2 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名、日本腎臓病学会指導医 1 名 日本肝臓病学会肝臓専門医 1 名、日本肝臓学会指導医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本神経学会指導医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 その他（日本救急医学会救急科専門医 2 名、消化器内視鏡専門医 3 名、医長化専門医 1 名、透析医学専門医 1 名、認知症専門医 1 名、心療内科 1 名、プライマリ・ケア指導医 2 名、日本心血管インターベーション治療学会認定医 3 名、）
外来・入院患者数	外来患者 767.0 名（1 日平均）　入院患者 249.0 名（1 日平均）
経験できる疾患群	血液、内分泌、膠原病については十分な症例数を経験できない可能性があり、連携施設の研修で補います。それ以外の領域については、きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科サブスペシャリティ）	日本内科学会認定医制度認定関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設 日本肝臓学会特別連携施設 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定医教育施設
学会認定施設 （その他）	日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本心血管インターベーション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本がん治療認定医機構認定施設 日本東洋医学会教育関連施設

19. 済生会新潟県央基幹病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書やインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・衛生委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ハラスメント防止対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されています。 ・県央基幹病院にて院内保育所を設置予定です。
認定基準 【整備基準 23】	・指導医は４名在籍しています。（下記） ・研修管理委員会において、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基

2)専門研修プログラムの環境	幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催して、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2020 年度実績 10 回） ・研究施設群合同カンファレンス、CPC、地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度開催予定）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・研修に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	小泉　健 【内科専攻医へのメッセージ】 内科研修として、専攻医の皆さんのニーズに合わせて、能力・状況に応じた研修をご用意しています。幅広く全人的・総合的に高齢者を中心とした総合的な内科診療を学んでいただきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医４名、 日本専門医機構内科専門医１名、 日本内科学会総合内科専門医７名 日本消化器病学会消化器病指導医１名、専門医３名 日本呼吸器学会呼吸器専門医１名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医１名 日本循環器学会循環器専門医２名 日本神経学会神経内科指導３名、専門医３名 日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本感染症学会感染症専門医１名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医３名 日本救急医学会救急科指導医１名・専門医２名
外来・入院患者数	外来：7,875 名　入院 4,800 名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	連携施設として当院では研修手帳（疾患群項目表）にある 10 領域の疾患に加え、総合内科Ⅰ（一般）・Ⅱ（高齢者）を十分に経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院では、医師・看護師・コメディカル・MSW によるチーム医療を推進しています。そのリーダーとしての医師の役割を研修します。院内においては、医療安全・感染管理・NST・褥瘡・コンチネンスケア・緩和ケア・認知症ケアチームなどが活動しており、多角的に症例を検討する機会を得られます。
学会認定施設 （内科系）	・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 ・日本感染症学会認定研修施設 ・日本神経学会専門医制度准教育施設 ・循環器専門医研修関連施設

20. 国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 42 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4〜5 題の学会発表をしています。
指導責任者	柴山浩彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 42 名 日本内科学会総合内科専門医 29 名　日本内科学会専門医（新制度）7 名 日本循環器学会専門医 12 名　日本消化器病学会専門医 14 名 日本肝臓学会専門医 9 名　日本呼吸器学会専門医 7 名 日本腎臓学会専門医 3 名　日本糖尿病学会専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 3 名　日本血液学会専門医 5 名 日本神経学会専門医 7 名　日本アレルギー学会専門医 2 名

	日本感染症学会専門医 3 名　　日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院 患者数	外来患者　 年間240,696 名（1 ヶ月平均 20,058 人） 新入院患者 年間15,793 名　（1 ヶ月平均　1,316 人）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　　日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設　　日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　　日本胆道学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　　日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓学会研修施設　　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　　日本血液学会血液研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院　　日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本感染症学会研修施設　　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

21. 関西労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･関西労災病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント防止対策委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 21 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ･医療倫理（2025 年度実績 1 回）・医療安全（2025 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2025 年度実績 4 回）を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（感染対策地域連携カンファレンス； 2025 年度実績 4 回，阪神がんカンファレンス； 2025 年度実績　乳がん 1 回、婦

	人科がん 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 67 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 7 体、2024 年度実績 6 体、2023 年度実績 7 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 12 体、2020 年度実績 10 体、2019 年度実績 10 体，2018 年度実績 12 体，2017 年度実績 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ･治験事務局を設置し，月 1 回臨床治験倫理審査委員会を開催（2025 年度実績 10 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	和泉　雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 　関西労災病院は，兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神北医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器指導医 10 名， 日本消化器病学会消化器専門医 18 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会指導医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本腎臓学会指導医 3 名，日本腎臓学会専門医 5 名， 日本透析医学会指導医 2 名，日本透析医学会専門医 2 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 13 名， 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名， 日本臨床腫瘍学会指導医 2 名，日本臨床腫瘍学会専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 24,033 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,481 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

22. 社会福祉法人新潟市社会事業協会信楽園病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･医局に専攻医各個人に専用電子カルテ端末が用意されます．文献とインターネット環境があります. ･信楽園病院常勤医師としての待遇が保障されます. ･勤務時間を Dr. joy により把握し、過重労働とならないよう配慮しています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（労安員会）や担当職員（産業医、保健師等）がおります. ･ハラスメント委員会が院内に設置されています. ･女性医師専用の医局が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 8 名在籍しています. ・研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策委員会が院内に設置され定期的に開催しています。専攻医に委員会への参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・院内で CPC を定期的に開催しています。2022 年 1 件、2023 年 2 件、ほか腎組織検討回を 2022 年 11 回、2023 年 7 回開催。専攻医は CPC への参加を必須としその時間を確保します。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，感染症，救急の 9 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検を適切に行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会信越地方会を始め、内科各サブスペシャリティー領域において症例報告や研究発表を行うべく、手厚く指導、サポートします。学会年会費、出張旅費の援助も行っています。
指導責任者	【病院長より】　救急車搬送は年間 2,500 件を超え，多くの症例が集まり豊富な症例を経験することができます．循環器内科の冠動脈インターベンションは県内でも有数の症例数を誇り，消化器内科は消化器外科と連携し，内視鏡・腹腔境・開腹術等全般をフォローしています．呼吸器内科は以前から感染症診療に力を入れており，特にこの 2 年間は新型コロナウイルス患者の診療はもちろん，感染制御部の中心として病院内や関連施設の感染対策にも尽力しております．糖尿病・内分泌内科は多様な内分泌疾患に対し栄養科と共同で栄養指導や血液浄化療法導入予防等を行い，多くの患者さんをフォローしています．脳神経内科は脳神経外科及びリハビリテーション科と連携し脳血管障害，認知症，神経変性疾

	患等幅広く診療しており，当院の訪問看護ステーションと共に在宅診療も行っています．さらに放射線診断科・麻酔科・病理診断科に常勤の専門医を配置し，質の高い診療を提供しております．また，今は新型コロナウイルス感染のため制限もありますが，国内学会のみならず国際学会への演題応募も推奨し，学会参加も援助しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本透析学会専門医 5 名 日本肝臓学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本神経学会専門医 2 名 日本認知症学会専門医 1 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	2023 年度内科系入院　消化器 716　循環器 471　代謝・内分泌 163　腎・透析 816　呼吸器・感染症 263　脳神経 629 2023 年度内科系外来 内科 27　消化器 8495 循環器 13367 代謝・内分泌 16247 腎・透析 62315　呼吸器・感染症 5662　血液 322　脳神経 11509
経験できる疾患群	血液、膠原病、アレルギーの専門医は在籍しておりません。他の内科診療分野においては十分な指導体制のもと研修を行い、内科専門医に必要な症例を経験し、研鑽が可能です。
経験できる技術・技能	血液、膠原病、アレルギー以外の内科診療分野において、各診療科指導医のもと内科専門医取得に必要な手技を繰り返し経験し、習得することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	当院は総合病院ではないため、地域の他の医療機関と密接に連携し診療を行っています。また少子高齢化が進む地域にあって、様々な他職種との連携体制を構築し、患者さん、御家族の診療、サポートに取り組んでいます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会　教育関連病院 日本腎臓学会　認定教育施設 日本透析医学会　認定施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本感染症学会　認定研修施設 日本消化器病学会　関連施設 日本消化器内視鏡学会　指導連携施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設及び大規模臨床試験参画施設 日本糖尿病学会　教育関連施設 日本神経学会　准教育施設 日本脳卒中学会　認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会　研修施設 日本静脈経腸栄養学会　ＮＳＴ稼動認定施設 日本病態栄養学会　栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本病態栄養学会　専門医研修認定施設

	日本認知症学会　教育施設 日本カプセル内視鏡学会　指導施設 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター（PSC）コア施設

23. 天理よろづ相談所病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	･指導医が 37 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療安全・感染対策　E-learning 開催）します。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）します。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2019 年度実績　10 演題）をしています.
指導責任者	羽白　高 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の 1 つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 37 名 日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院 患者数	外来：約 1,800 名（1 日平均） 入院：約 500 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患

	群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌･甲状腺外科学会専門医制度認定施設　など

24. 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24]	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

3）診療経験の環境	・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 ［整備基準 24］ 4）学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本　久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・10 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 20 名、 日本内科学会総合内科専門医 20 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会専門医 5 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 1 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 1 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 384 名（一日平均）　入院患者 146 名（一日平均）(2025 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設

	日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医準教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設 （2026 年 4 月 1 日現在）

25. 兵庫医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・ 専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・ 隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 44 名在籍しています。 ・ 本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催しています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に、卒後臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・ 兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検数を行っています。

認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	木島　貴志 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 58 名 日本内科学会総合内科専門医 59 名 血液専門医 8 名 日本リウマチ学会専門医 9 名 日本糖尿病学会認定専門医 11 名 日本内分泌学会専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名 日本消化器内視鏡学会専門医 29 名 日本呼吸器学会専門医 9 名 日本神経学会専門医 4 名 日本腎臓学会認定専門医 9 名 日本透析医学会認定専門医 11 名 日本循環器学会専門医 18 名
外来・入院患者数 （2025 年度実績）	外来患者数：213,815（延人数）・入院患者数：104,879（延人数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。

学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会 日本がん治療認定医機構 日本リウマチ学会 日本肝臓学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本循環器学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器病学会 日本心血管インターベンション学会 日本緩和医療学会 日本静脈経腸栄養学会 日本動脈硬化学会 日本不整脈学会 日本神経学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本糖尿病学会 日本透析医学会 日本頭痛学会 日本内科学会 日本内分泌学会 日本脳卒中学会 日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会 日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会 日本老年医学会 日本 IVR 学会 日本カプセル内視鏡学会 日本高血圧学会 日本消化管学会 日本胆道学会

26. 愛媛県立中央病院

認定基準 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務医事課担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

認定基準 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は 35 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（主任部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 9 体、024 年度実績 13 体、2023 年度実績 8 体を行っています。
認定基準 ４）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 9 回）しています。
指導責任者	副院長（消化器内科）　玉木　みずね 【内科専攻医へのメッセージ】 　愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数　（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医数 13、日本循環器学会循環器専門医数 8、日本内分泌学会専門医数　2、日本糖尿病学会専門医数　5、日本腎臓病学会専門医数　3、　日本呼吸器学会呼吸器専門医数　7、日本血液学会血液専門医数　8、日本神経学会神経内科専門医数　5、日本アレルギー学会専門医（内科）数　2、日本リウマチ学会専門医数　0、日本肝臓学会専門医　8、臨床腫瘍学会専門医　2、消化器内視鏡学会専門医　13、日本感染症学会専門医数　2、日本老年学会専門医数　3、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 25,736 名（1 ヶ月平均）　入院患者 15,353 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会専門医認定施

	設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本感染症学会連携研修施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、非血縁者間骨髄移植認定施設、 非血縁者間末梢血幹細胞採取（移植）認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定　総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設、日本東洋医学会研修施設、ステントグラフト実施認定施設など

27. 市立豊中病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります. ･豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が病院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 29 名在籍しています（2026 年 4 月 1 日現在）. ･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会、豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

	·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体、2024 年度 8 体、2025 年度 4 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験審査委員会を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2025 年度実績 8 演題）。
指導責任者	小杉　智（内科主任部長、血液内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤内科医） 2025 年 4 月 1 日現在	日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本専門医機構認定（新）内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓病学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 3 名， 日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 5 名
外来・入院患者数 （内科系）	外来延患者数　109,071 名/年（2025 年度） 入院件数　84,470 件/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など

28. 大阪医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･大阪医科大学附属病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 47 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 7 回，感染対策 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 13 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	今川彰久 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪医科薬科大学病院は，大阪府と京都との間に位置する三島医療圏に属し，人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは市立東大阪医療センターと連携して内科医を育成することを目的とし，特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的と

	するものです。どうぞ本プログラムにご参加ください。
指導医数	日本内科学会指導医 47 名，日本内科学会総合内科専門医 57 名、日本消化器病学会消化器専門医 27 名，日本循環器学会循環器専門医 13 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名，日本血液学会血液専門医 6 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，日本臨床腫瘍学会専門医 7 名，日本緩和医療学会 2 名 ほか
外来・入院患者数 （2025 年度実績）	外来患者 13,065 名（1 ヶ月平均）　入院患者 7,688 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設

	ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

市立東大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

市立東大阪医療センター

鷹野　譲（副院長，　プログラム統括責任者）
三田　英治（総長）
中　隆（特任院長）
松浦　可奈子（事務局代表，臨床研修センター事務担当）
石井　修二（消化器内科分野責任者）
宇田　裕史（免疫内科分野責任者）
隅　寿恵　（脳神経内科分野責任者）
市川　稔　（循環器内科分野責任者）
藤村　龍太（腎臓内科分野責任者）
平田　歩　（内分泌・代謝内科分野責任者）
松梨　達郎（血液内科分野責任者）
宇治　正人（総合診療科分野責任者）
倉橋　達人（医療技術局代表）

連携施設担当委員

大阪急性期・総合医療センター	林　晃正
大阪はびきの医療センター	森下　裕
大阪国際がんセンター	藤田　雅史
大手前病院	杉浦　寿央
結核予防会　大阪複十字病院	松本　智成
国立病院機構　大阪刀根山医療センター	矢野　幸洋
地域医療機能推進機構　星ヶ丘医療センター	髙橋　務
八尾市立病院	榊原　充
大阪大学医学部附属病院	山本　浩一
北斗病院	金藤　公人
奈良県総合医療センター	前田　光一
奈良県西和医療センター	土肥　直文
奈良県立医科大学附属病院	吉治　仁志
市立奈良病院	田中　斉祐
市立伊丹病院	村山　洋子
兵庫県立西宮病院	楢原　啓之
古賀総合病院	楠元　寿典
上越総合病院	佐藤　知巳
新潟県央基幹病院	遠藤　直人
NHO 大阪医療センター	柴山　浩彦
関西労災病院	和泉　雅章
信楽園病院	川崎　聡

天理よろづ相談所病院	羽白　高
日本生命病院	橋本　久仁彦
兵庫医科大学病院	木島　貴志
愛媛県立中央病院	玉木　みずね
市立豊中病院	小杉　智
大阪医科薬科大学病院	今川　彰久

オブザーバー

内科専攻医代表 1	野﨑　聡
内科専攻医代表 2	奥村　瑞紀

Appendix

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

市立東大阪医療センターサブスペシャルティ研修の特徴

１）消化器内科　　部長　石井修二

消化器内科では，肝臓領域，消化管領域，胆膵領域の悪性疾患から良性疾患まで，また急性疾患から慢性疾患まで幅広く診療を行っています．日本消化器病学会，日本肝臓学会，日本消化器内視鏡学会の認定施設であり，各種の診療ガイドラインを基軸に，外科・放射線科と密に連携しながら診断・治療を行っています．

当院は厚生労働省指定のがん診療拠点病院であるため，当科としては特に消化管（食道・胃・大腸）の早期癌に対する内視鏡治療（粘膜下層剥離術（ESD)・粘膜切除術（EMR)），肝細胞癌に対するラジオ波治療（RFA），動脈化学塞栓療法（TACE)，および手術不能進行癌に対する化学療法にも力を入れています．治療の適応については，消化器外科，放射線科との合同カンファを行って，決定しています．

また，地域医療支援病院にも指定されており，救急車・救急患者の受け入れに力を入れています．胃・十二指腸潰瘍や静脈瘤破裂等の消化管出血，閉塞性化膿性胆管炎等の緊急疾患を積極的に受け入れ，内視鏡的止血処置やドレナージ術等を数多く施行しています．

それ以外にも，C 型慢性肝炎の経口 DAA 製剤治療，B 型慢性肝炎の核酸アナログ製剤治療，IBD の治療も積極的に行っています．

消化器内科は扱う臓器・疾患が多岐にわたるため，非常に多忙な診療科ですが，内視鏡や超音波等を用いた検査・治療手技が多く，手技が上達して行く充実感は大きなものがあります．病院によっては肝疾患と消化管疾患に分かれているところもありますが，当院では消化器の generalist を育成する目的で，区別なく全ての領域の十分な研修をしてもらいます．当院は人口 50 万人の東大阪市において唯一の 500 床以上の中核病院であるため，多彩な症例を数多く経験でき，臨床の最前線を学びたい方には是非とも当院での研修をお勧めします．

病床数　43 床，年間入院患者数（2024 年）　1512 人，
年間症例数（2024 年）
　上部消化管内視鏡件数　3312 件，大腸内視鏡件数　1960 件，ERCP　479 件
　　ESD　108 件　大腸ポリペク・EMR　669 件，EUS-FNA　41 件
　　消化管止血術　170 件，
　RFA・PEIT・肝生検　26 件，

２）循環器内科　　部長　市川　稔

市立東大阪医療センター循環器内科は，東大阪市を中心とした中河内地域の中核病院となるべく急性冠症候群，急性大動脈解離、心不全，肺動脈血栓塞栓症，閉塞性動脈硬化症などの循環器急性期疾患を中心に診療を行っております．また、女性医師も多数在籍しており、忙しいなかでもワークライフバランスを保てるように皆で協力しながら日々頑張っております．大阪市内と異なり東大阪市は 50 万人都市ですが，夜間に緊急で循環器疾患の対応ができる病院は少ないため，多数の救急患者の搬送があります．そのため，循環器疾患に関しては急性期から慢性期に至るまで様々な症例を経験することができます．当科は卒後 10 年目までの医師が多数を占めておりますので，チームとしては発展途上といえますが皆が助けあいながら日々診療をこなしています．また，隣接する中

河内救命センターには循環器専門医が不在であるため、連携を強固にしております。心臓血管外科とともに，TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）も開始しております。また、末梢血管センターも開設し、多数の診療科と連携しインターベンションに関して行っております。忙しいとは思いますが，１つ１つ作り上げる楽しみな面もあると思います．学会発表や臨床研究に関しても，積極的に行っており国内外を問わずやる気があれば発表のチャンスはあります．研究面では，冠動脈，下肢インターベンションにおける血管内イメージング，特に血管内視鏡を用いた研究は他の施設にはない特徴と言えると思います．まだまだ発展途上の科ですが，一緒にチームを作っていく仲間として参加して頂けることを願います．

３）脳神経内科　　部長　隅　寿恵

スタッフ 9 名（院長除く）　病床数 41 床　患者数　2023 年度年間入院患者数 745（平均在院日数 17 日），2022 年度年間外来患者数 9,110（うち病院としての初診 829）．

＜主要疾患別入院患者数＞

年度	脳血管障害			神経変性疾患				炎症性疾患		脳症	てんかん	筋疾患	末梢神経障害
	梗塞	出血	TIA	PD	MSA	MND	PSP	MS/NMO	髄膜/脳炎				
2023	109	22	18	78	18	25	21	12	20	40	41	23	37

＜主要疾患別臨床調査個人票作成数＞

年度	神経変性疾患							神経免疫疾患			筋疾患	
	PD	PSP	CBS	MSA	ALS	SMA	SCD	MG	MS	CIDP	DM/PM	筋ジス
2021	237	20	9	18	8	2	52	43	34	10	19	4

東大阪市近辺に神経内科を標榜し入院施設を持つ施設が乏しいことから，東大阪市保健所と協力し，大阪府より指定された府下 12 の難病診療連携拠点病院の一つとして，中河内地区での難病診療に注力しています．また，救急指定の内科 1 部門として，急性疾患の脳血管障害や，頭痛・てんかん・めまい等の機能的疾患に対応しています．また神経・筋生検などの手技および病理診断や病理解剖での神経病理診断も院内で可能なことも特長の一つです．

脳血管障害に関しては，脳外科医（血管内治療医 2 名含む）と救急ホットライン等で協力し，合同カンファも実施しています．また，当院の救急整備に併せて，2020 年 2 月より 365 日 24 時間の SCU 当直も開始しています．

脳神経内科医を志す臨床研修医に充分な教育が可能な豊富な症例に巡り会える点が最大の特長であり，現在神経内科教育施設として，若い神経内科医を育てる努力を行っており，2018 年度 1 名，2020 年度 1 名，2021 年度 2 名，2022 年度 3 名、2023 年度 4 名、2024 年度 4 名の専攻医が当院での内科専攻に加えてサブスペ専攻を行い，資格取得後に全員が脳神経内科専門医を取得しています．

連携施設では，シーリングの関係で大阪府下の他の基幹施設での専攻は難しくなりましたが，兵庫県，奈良県，新潟県など，大阪府下の施設と引けを取らない施設と連携を行い，充実した専攻を行えるよう配慮しています．

脳神経内科に興味を持ち，神経変性疾患、神経炎症性疾患などの難病と脳血管障害やてんかんなど神経救急疾患の両方をバランスよく診療したい方に当院のプログラムを強くお勧めします．

週間予定例：

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土/日曜日
	救急内科外来・朝カンファレンス					日直/当直 オンコール 研修・学会参加
午前	入院患者 診療	入院患者 診療	入院患者 診療	入院患者 診療	多職種・ 症例カンファ 病棟回診	
午後	血管造影	頭痛外来 診療	外来再診 診療	神経生理 検査	入院患者 診療 頸動脈エコー	
	CPC(不定期)	抄読会	内科合同 検討会		脳外科合同 カンファ	
	当直　オンコール　研修・学会参加					

４）腎臓内科　　副部長　藤村　龍太

当院腎臓内科では、中河内地域の拠点病院として、急性期・慢性期の腎疾患を問わず、診断から治療まで一貫して行っており、「腎臓病にならない・腎臓病を早期に発見する・腎臓病を進めない・腎臓病で命を落とさない」をモットーとして日々診療に勤しんでおります。当科は大阪大学や大阪急性期総合医療センター、大阪赤十字病院など大阪府下の主たる 13 病院から構成された大阪慢性腎臓病対策協議会(O-CKDI)に加入しており、地域との連携も非常に精力を入れております。

一次性(腎炎やネフローゼ症候群)、二次性(糖尿病・高血圧・膠原病など)の腎臓病の診療から、慢性腎臓病の進行抑制、腎代替療法の療法選択（血液透析・腹膜透析・腎移植）や導入管理(血液透析・腹膜透析)、透析合併症といった「腎疾患のトータルケア」を患者さん一人一人に実践できるよう心がけています。各種血液浄化療法や特殊な体外循環治療、輸液管理や電解質異常、栄養学、ICU 管理における Critical Care Nephrology の診療すべてを含む極めて多彩な領域もカバーしており、内科学全般といっても過言ではありません。腎疾患の診療では取り扱う疾患が多岐に渡るので、他科から頼られる場面も多く、腎臓内科医のニーズは近年さらに高まっています。研修に必要な手技やスキル(腎生検やカテーテル挿入術、シャント造設術など)に加え、幅広い知識を習得しつつ、疾患の病態を論理的に考えて全身を診る Generalist としての姿勢を身に付けていただきます。腎生検症例も非常に豊富で、一症例ごとに腎生検カンファレンスにて症例検討を行い、腎病理を勉強できる体制がしっかりと整っています。内科教育病院、腎臓学会認定施設、透析学会認定施設でもあり、内科専門医・腎臓専門医・透析専門医の取得は勿論のこと、多職種と連携して最善の医療を施せる医師として成長していただく努力も行っています。

同時に腎臓病にはまだまだ未開拓の領域が潜んでおり、現状の治療法に満足するだけでなく、より良い医療を行いたいというやる気に満ち溢れた、リサーチマインドを有した医師を育てたいと考えています。自身の成長を応援しグローバルな観点から学んでいただけるよう、国内外問わず学会発表や研究会の参加も積極的に勧めています。腎臓内科医を志すやる気に満ちた研修医の先生方に充分な教育環境と豊富な症例が整っており、バランス良く研修できる当院のプログラムを強くお勧めします。

週間予定例

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">救急内科外来朝カンファ/ICUカンファ</td><td rowspan="3">病棟/透析管理
（当番制）
担当患者の状況に応じた診療/オンコール/当直/学会・研究会参加</td><td rowspan="3">担当患者の状況に応じた診療/オンコール/当直/学会・研究会参加</td></tr>
<tr><td>病棟/透析管理</td><td>病棟/透析管理
腹膜透析外来</td><td>病棟/透析管理</td><td>病棟/透析管理
腹膜透析外来</td><td>病棟/透析管理</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>病棟/透析管理
エコー研修</td><td>病棟/透析管理
症例カンファ</td><td>病棟/透析管理
腎生検
病棟回診</td><td>病棟/透析管理
腎生検
シャント手術
透析カンファ</td><td>病棟/透析管理
シャント手術
腎病理カンファ
抄読会</td></tr>
<tr><td colspan="5">腎代替療法選択外来</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の状況に応じた診療/オンコール/当直/学会・研究会参加</td></tr>
</table>

5）内分泌代謝内科　　部長　平田　歩

内分泌代謝内科では糖尿病・甲状腺疾患等の各種内分泌代謝疾患を対象とした研修を行います。入院では糖尿病・副腎・下垂体疾患患者、救急疾患を主科として担当する他に術中血糖管理、免疫チェックポイント阻害薬による irAE としての糖尿病・甲状腺機能障害・下垂体機能障害の診療、糖尿病合併妊娠における血糖管理等を他科と協調して行います。一般内科疾患としての電解質異常、感染症などにも触れていきます。

外来では糖尿病・甲状腺・肥満症などの疾患を中心に診療いたします。また NST 活動を通じて各種疾患の栄養管理も経験します。

症例検討では多方面からのディスカッション、論文の critical reading の手法の習得などを行い、EBM の実践につなげていきます。

6）免疫内科　　部長　宇田　裕史

臨床免疫学の分野は、分子生物学の発展と共に常に日進月歩の発展をとげています。特に、最近は関節リウマチ以外の疾患でも生物学的製剤などの分子標的薬が導入されてきており、リウマチ・膠原病疾患の診療には大変革が続いています。また、膠原病には多くの難病が含まれますが、当院は大阪府難病診療連携拠点病院に選定された 12 病院の 1 つです。中河内医療圏では当分野での病床を有する病院がなく、フレッシュな症例が多いのが特徴です。

当科では自己免疫疾患を有する患者に対し、可能な限り正確な診断を確定した上で、説明と同意のもと、エビデンスに基づいた最善の治療を行います。特に、同じ診断名でも患者さん一人一人で重症度、疾患の活動性が違い、また、おかれた社会的な立場が違うことをよく認識する必要があります。

研修は当診療チームの一員として、自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、シェーグレン症候群等）の患者を担当し、免疫疾患の病態の把握と、その診断・治療に関する基本的な知識と技術を修得します。

自己免疫疾患は全身の諸臓器の病変を伴い、また治療により免疫不全を併発するため、各種の感染症併発や、病状の急変をきたすことが多いので、プライマリ・ケアからターミナル・ケアに至るまで内科医として必要な多くのことを研修できます。

7）血液内科，その他

豊富な症例数が経験でき，各サブスペシャルティに関する指導医が在籍しています（2.募集専攻医数（P.3）内科基幹施設案内（P.21）参照）．さらに隣接の三次救命救急施設である中河内救命救急センターとも有機的に協力して診療を始めています.

指導医一覧

辻井 正彦　消化器内科
三田 英治　消化器内科
石井 修二　消化器内科
赤松 晴樹　消化器内科
名和 誉敏　消化器内科
福岡 誠　消化器内科
鷹野 譲　循環器内科
市川 稔　循環器内科
石津 宜丸　循環器内科
中 隆　脳神経内科
隅 寿恵　脳神経内科
川口 義彦　臨床検査科
平田 歩　内分泌代謝内科
宇田 裕史　免疫内科
藤村 龍太　腎臓内科
松梨 達郎　血液内科 他申請中

以上 2026 年 4 月現在